This Page Is Inserted by IFW Operations and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning documents will not correct images, please do not report the images to the Image Problem Mailbox.

25352 2002 2

JP01221364

HIV REVERSE TRANSCRIPTASE INHIBITOR AND ANTITUMOR AGENT MICROBIAL CHEM RES FOUND

Inventor(s): ; TAKEUCHI TOMIO ; UMEZAWA KAZUO ; HIROSE SONOKO ; MURAOKA YASUHIKO ; TAKETSURU HIROFUMI ; NOGAMI TAKASHI Application No. 63002544, Filed 19880111, Published 19890904

Abstract: PURPOSE: To obtain the title drug by using acridines including some novel compounds as an active ingredient, thus having excellent reverse transcriptase inhibitory activity against human immunodeficiency virus (HIV) with weak cytotoxicity, thus being expected to treat AIDS.

CONSTITUTION: The objective inhibitor contains, as an active ingredient, an acridine derivative of formula I [R is alkylene, formula II (R_2 , R_2 ' are H, lower alkyl, amino, lower alkyl, n is 0 or 1); R_1 is lower alkyl; X is halogen; Y is basic group] or its acid adduct, for example, a novel compound of formula III [R' is alkylene, formula IV (R_2 " is lower alkylene, amino-lower-alkyl); formula V, formula VI, formula VII; where, when R' is alkylene, Y is a group other than -NH₂] or its acid adduct. The compound of formula I is obtained by condensation reaction of a compound of formula VIII (X'=X) with an amine of formula IV. The amount of the active ingredient in the preparation is 0.01 W100wt.%.

COPYRIGHT: (C)1989, JPO& Japio

Int'l Class: C07D21912; A61K03147 A61K031495 A61K031535

MicroPatent Reference Number: 000071633

COPYRIGHT: (C)JPO



PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 01221364 A

(43) Date of publication of application: 04 . 09 . 89

(51) Int. CI

C07D219/12 A61K 31/47 A61K 31/495 A61K 31/535

(21) Application number: 63002544

(22) Date of filing: 11 . 01 . 88

(71) Applicant:

MICROBIAL CHEM RES FOUND

(72) Inventor:

TAKEUCHI TOMIO
UMEZAWA KAZUO
HIROSE SONOKO
MURAOKA YASUHIKO
TAKETSURU HIROFUMI
NOGAMI TAKASHI

(54) HIV REVERSE TRANSCRIPTASE INHIBITOR AND ANTITUMOR AGENT

(57) Abstract:

PURPOSE: To obtain the title drug by using acridines including some novel compounds as an active ingredient, thus having excellent reverse transcriptase inhibitory activity against human immunodeficiency virus (HIV) with weak cytotoxicity, thus being expected to treat AIDS.

CONSTITUTION: The objective inhibitor contains, as an active ingredient, an acridine derivative of formula I [R is alkylene, formula II (R2, R2' are H, lower alkyl, amino, lower alkyl, n is D or 1); R1 is lower alkyl; X is halogen; Y is basic group] or its acid adduct, for example, a novel compound of formula III [R' is alkylene, formula IV (R2" is lower alkylene, amino-lower-alkyl); formula V, formula VI, formula VII; where, when R' is alkylene, Y is a group other than -NH2] or its acid adduct. The compound of formula I is obtained by condensation reaction of a compound of formula VIII (X'=X) with an amine of formula IV. The amount of the active ingredient in the preparation is 0.01W10Owt.%.

⑩公開特許公報(A) 平1-221364

⑩Int. Cl. * 識別記号 庁内整理番号 ・ ⑩公開 平成1年(1989)9月4日
 C 07 D 219/12 A 61 K 31/47 31/495 31/535 A D Y 審査請求 未請求 請求項の数 2 (全9頁)

②特 願 昭63-2544

②出 願 昭63(1988) 1月11日

@発	明	者	竹	内	富	雄	東京都品川区東五反田5丁目1番11号
$\omega_{\mathcal{H}}$	-73	13	1.4	' '			
⑫発	明	者	梅	沢		夫	東京都渋谷区広尾3-1-2-505
بار وي	/-	133	• • •			-	東京都品川区中延2-10-17-203
@発	明	者	広	瀬	호	子	
(P)	74	-	-				東京都板橋区髙島平3-11-2-1107
@発	明	者	村	岡	靖	彦	果京都収備区向岛十3-11 4 110
(9) 7C	-23	70		• -			埼玉県与野市下落合5-13-23
個発	明	者	竹	毽	弘	文	埼玉県与町巾「格合りー13ー23
(6) JE	-73	73	1.		-		
@発	明	者	野	-		尚	東京都北区志茂3-17-10
₩ 96	773	72					一一世界日山区上上於2丁日14系22早
例出	3	人	財長	H)井人	微生物化	:学研	東京都品川区上大崎3丁目14番23号
ω_{μ}	<i>A</i> -92		×1 +		DOC		· ·
			究会	<u>-</u> -			
			دبار	-			
67 LP	理	, i	±±∓	里士	竹田	和彦	
⊕૧∖	连		21.4	±-1-		, - ,=	

明 細 1

1. 発明の名称

HIV逆転写酵素阻害剤および抗腫瘍剤

- 2. 特許請求の範囲
 - (1) 一般式

[式中、 Rはアルキレン基または下記式

(2) 一般式

ン原子、 Rはアルキレン基または-(アルキ R2 レン)-N-(低級アルキレン)-(R2 は低級アルキル基またはアミノ低級アルキル基を NH 示す。)、 Yは-NH2, -NO, -NHCH, NH -NHCNH2を示す。但し Rがアルキレン基のとき、 Yは-NH2以外の基を示す。〕で表わされる新規アクリジン誘導体またはその酸付加塩

〔式中、Riは低級アルキル基、Xはハログ

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は後天性免疫不全症候群(AIDS)の 治療薬などとして期待されるヒト免疫不全症ウィルス(HIVと略す。)の逆転写酵素阻害剤お よび抗腫瘍剤に関するものである。

(従来の技術と解抉しようとする課題)

後天性免疫不全症候群(AIDS)の原因であるHIVはレトロウイルスであり、その逆転写解器は抗HIV物質探索の標的の一つと考えられる。既にアドリアマイシンなどが、トリ白血病ウイルスの逆転写解器を阻害することが知られている(文献:Journal of Antibiotics 4 0 巻 3 9 6 ー3 9 9, 1 9 8 7)が、それは強い 毎性を示す。そこでHIVの逆転写解素に対する阻害活性が強く、細胞毒性の弱い新規な化合物の創製と開発が要望されている。

(課題を解決するための手段)

本発明者等は、上記の要望に応えるべく研究を行っている。そして、本発明者等は、下記の一般式(1)で示されるアクリシン誘導体がHIVの逆転写酵素阻害活性が強く、細胞毒性がアドリアマイシンなどに比べ遙かに弱い化合物であることを見いだし、本発明を完成した。

即ち、本発明は一般式

原子、アミノ基、低級アルキル基またはフェニル基を示す。)などの基をあげることができる。本発明において、アルキル基としては例えばメチル基、エチル基、ブロピル基、ブチル基、イソプチル基、アミル基、イソアミル基、ヘブチル基、マクチル基、ノニル基、デシル基などの C1~C10の直鎖もしくは分枝のアルキル基をあげることができる。

低級アルキル基としてはメチル基、エチル基、 プロビル基、プチル基、イソプチル基、アミル 基、イソアミル基などの C₁ ~ C₅ のアルキル基な どをあげることができる。

アルキレン基としては直鎖でも分枝していてもよく、例えば直鎖部分が $C_1 \sim C_{10}$ のものがあげられる。例えば $-(CH_2)-,-(CH_2)_2-,-(CH_2)_3-,$ $-(CH_2)_4-,-(CH_2)_5-,-(CH_2)_6-,-(CH_2)_7-,$ $-(CH_2)_8-,-(CH_2)_9-,-(CH_2)_{10}-.$

CH: CH: CH: C2Hs -CH: CH-CH: -.-CH: -C-CH: -.-CH: -CH-CH: -などがあげられる。

$$R_1O \underbrace{\qquad \qquad NH-R-Y}_{N}$$

[式中、Rはアルキレン基または下記式

R2
-(アルキレン)-N-(低級アルキレン)-(N-(低級アルキレン))-(N-(低級アルキレン))-(N-(低級アルキレン))-(式中、R2またはR2は水素原子、低級アルキル基またはアミノ低級アルキレン基を示し、nは0または1の整数を示す。)で決わされる基、R1は低級アルキルを)
VXはハログン原子、Yは塩基性基を示す。〕
で示されるアクリジン誘導またはその酸付加塩を有効成分とするHIV逆転写解素阻害剤および抗腫瘍剤に関するものである。

低級アルキレンとしては直鎖でも分枝していてもよく、例えば直鎖部分が C₁ ~ C₅のものがあげられる。

ハロゲン原子としてはクロル原子、プロム原子などがあげられる。

次に本発明で使用する一般式(1)における化合物を例示すると次の通りである。

第1表

化合物Na	R,	х	R	Y	略称
1	CH ₂ -	Ce	-(CH ₂) ₂ -		AE.
2	•	•	-(CH ₂) ₃ -	•	AP
3	•	•	-(CH ₂) ₄ -		AB
4	,	,	-(CH ₂) ₅ -	•	APN
5	•	,	-(CH ₂) ₆ -	•	AH
6	,	•	-(CH ₂) ₇ -	•	AHP
7	,	•	- (CH ₂) ₃ -:	-N (CH ₃) ₂	DMP
8	,	•	-(CH ₂) ₂ -	-NH CH₂ CH₂ OH	HEE
9	•		-(CH ₂) ₃ NO		MOP
1 0	, ,	•		NH -NHCH	FIP
1 1	,	•	•	NH —NH CNH₂	GP
1 2	•	•	-(CH ₂) ₂ -NH-(CH ₂) ₂ -	-NH ₂	AEE
1 3	•		CH_3 -(CH_2) ₃ -N-(CH_2) ₃ -		APMP
1 4	•	•	$\begin{array}{c c} C_2H_4NH_2 & -NH_2 \\ -(CH_2)_2-N-(CH_2)_2- & -NH_2 \end{array}$		BAEE
1 5	•	,	CH_3 $-(CH_2)_3 - N - (CH_2)_3 - NHCH$		FPMP

第1表つづき

-			·		
化合物Na	R_1	х	R.	Υ	略称
16	CH ₃ -	Ce	CH ₃ -(CH ₂) ₃ -N-(CH ₂) ₅ -	NH -NHCNH₂	GPMP
1 7	,	,	-(CH ₂) ₂ -NH-(CH ₂) ₂ -NH-(CH ₂) ₂ -	−NH₂	AEEE
1 8	•	•	-(CH ₂) ₃ -NH-(CH ₂) ₃ -NH-(CH ₂) ₃ -	−NH₂	APPP
1 9	•		-(CH ₂) ₂ -	-NN-(CH ₂) ₂ NH ₂	APPYP
· 2 0	,	,	CH ₃ -CH-(CH ₂) ₃ -	-N (C ₂ H ₅) ₂	DEMB
2 1	,	•	CH ₂ CH ₃ -CH ₂ -C-CH ₂ -	−NH ₂	ADMP

上記化合物のうち一般式(1)

$$R_1O$$

$$NH-R'-Y$$

$$X$$

$$(1)^5$$

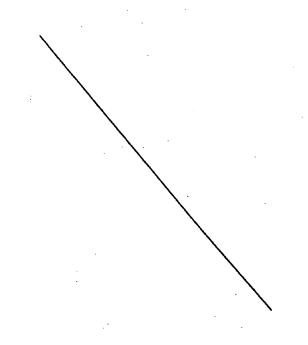
「式中、Riは低級アルキル基、Xはハロゲン原子、Riはアルキレン基または一(アルキレン)Ri2
-N-(低級アルキレン)-(Ri2は低級アルキル基またはアミノ低級アルキル基を示す。)、NH NH NH NHCH1. を示す。但しRiがアルキレン基または一(アルキレン)-NH-(低級アルキレン)-のとき、Yは-NH2以外の基を示す。〕

で表わされるアクリジン誘導体またはその酸付 加塩は新規化合物である。

本発明の化合物は、通常公知方法、例えば J. Chem. Soc., Chem. Commun., (1980), 1298 -1300などに記載の方法もしくはそれに準じ て合成することができる。

即ち、一般式(11)

あげることができる。



(式中、凡およびXは前記と同じ意味を表わし、Xはハロゲン原子を意味する。)で表わされる2-アルコキシー6.9-ジハロゲノアクリジンと一般式(II)

$NH_2 - R - Y$

一般式側の化合物としては次のようなものを

一般式』の化合物		器
NH2 (CH2)2 NH2	エチレンジアミソ	ED
NH ₂ (CH ₂), NH ₂	1,3ーブロバンジアミン	PD
NH, (CH,),NH,	1,4ープタンジアミン	BD.
NH, (CH,), NH,	1,5ーペンタンジアミン	PND
NH2 (CH2), NH2	1,6ーヘキサンジオミン	НД
NH ₂ (CH ₂), NH ₂	1,7~~ブタンジアミン	HPD
NH, (CH,), N (CH,),	N,Nージメチルー1,3ージフミノブロバン	DMDP
NH2 (CH2), NH (CH1), OH	Nーヒドロキシエチルエチレンジアミン	невр
NH, (CH2), N	3ープミノブロビルモルホリン	APM
NH2 (CH2)2 NH (CH2)2 NH2	ピス(2ーナミノエチル)アミン	BAEA
CH3 NH2 (CH2)3 N (CH2)3 NH2	ピス(3ーアミノブロビル)メチルアミン	BAPM
CH ₂ CH ₂ NH ₃ NH ₂ (CH ₂) ₂ N (CH ₂) ₂ NH ₂	トリス(2ーアミノエチル)アミン	TAEA

TET	TPT	BAPP	ADEB	DMPD	
トリエチレンテトラミン	トリプロピレンテトラミン	1,4ービス(3ーTミノブロビル)ピペラジン BAPP	3ーアミノー1ージエチルアミノブタン	2,2ージメチルー1,3ープロバンジアミン	
NH; (CH;); NH (CH;); NH (CH;); NH;	NFI, (CH2), NH (CH2), NII (CH2), NH2	NH, (CH,), N (CH,), NH,	CH, NH, CH (CH,), N (C, H,),	CH, CH, CH, NH, NH, CH, CCH, NH,	
c	:Ha —	C<	NH DC₂H₅	·HCŁ	IAI
N	H2 —	·c<	ากม	H CŁ	OMIU
N	H ₂ —	.c<'r	NH CI	_	DM CA

上記縮合反応によって得られる一般式(1)の化合物は必要に応じてクロマトグラフィー処理、 溶媒抽出など一般的に公知な方法を用いて分離 精製を行うことができる。

一般式(j)の化合物は酸と塩を形成し、通常塩酸塩などの薬理学上許容される塩の形で使用される。

前記一般式(1)の化合物をHIV逆転写酵素阻害 剤もしくは抗腫瘍剤として用いるときは、一般 式(1)の化合物をそのまま、もしくは医薬用担体 とともに製剤化して用いることができる。

製剤中における一般式(1)の化合物の含量は製剤により種種異なるが、通常 0.0 1 ~ 1 0 0 重

Re また一般式(!)において Y が || -NII-C=NII または || で表される基である化合物 は、通常、前記一段式(!)で示されるアクリジン のうち、 Y が -NII₂ である化合物および 一般式(IV) Re-C || NIII

(式中、Re は水素原子、アルキル基、アリル 基またはアミノ茲、X はアルコキン、アリールオ キン、ハロゲンまたは CII: を示す。)

で表されるイミデート、イミドイルハライド、 圏換アミシンを不活性溶媒、好ましくはメタノ ール、エタノールなどの低級アルコール、水、シ メチルホルムアミド (DMF)などの中で反応させる こにより得ることができる。

反応は通常0°~溶媒の那点で行うことができる が好ましくは10~100℃程度である。

一股式(N)の化合物としては例えば下記のものが あげられる

量%通常 0.1~9 0%、好ましくは 1~7 0重量%であり、残部は通常医薬品に使用される担体その他の補助剤からなる。

一般式(I)の化合物の毒性は細胞毒性で、いずれの化合物も I. Cso はおおよそ 0.3 以上でアドリファイシンに比して十分の一以下と小さい。

次に本発明の製剤例を示す。

製剤例 1.

化合物(1)の塩酸塩30重量部に対し精製水を加 え全量を2000部としてこれを溶解後ミリポアフィルターGSタイプを用いて除菌戸過する。

この戸液 2 g を 1 0 ml のパイアル瓶にとり凍結 乾燥し、 1 パイアルに化合物(1)の塩酸塩 3 0 電を 含む凍結乾燥注射剤を得た。

(作用)

次に一般式(1)の化合物のHIV逆転写酵素阻害 活性ならびに細胞毒性の評価試験について以下 に記載する。

(4) HIV逆転写酵素阻害活性 HIV感染細胞培養上清を 9.5 % ポリエチレ

ングリコールで3時間処理した後、遠心分離 して 2.5 × 1 0° PFU/mlのHIV溶解液[3 3.3 % グリセロール、 1 6.7 mM トリスーHCL(pH 7.5)、533 mM K Cと、0.32 % トリトン X ー 100、3.3 mM ジチオソレイトールに溶解] を調製した。このように調製されたHIV溶解 液の逆転写酵素活性はウサギーβーグロビン mRNA を鋳型、オリゴ dTをプライマーとした 場合の DNA合成を [α⁻³³ P) dATP の取り込み 率によって測定した。すなわち1 MのHIV 溶解液 9 此の酵素反応液(50mMトリスー HCL (pH 8. 3), 7 0 mM KCL, 1 0 mMMg CL2, 30 mMメルカプトエタノール、90 nM dNTPs 3.3 µg /ml オリゴ dT、 8.1 mU /mlヒト胎盤 RNaso 1 2 L L B - 5 Mg/ml B - 10 L Y mRNA 0.14 mCi/ml (α⁻³² P)dATP) に加え 37℃で30分間保温した後、10%トリク ·ロロ酢酸 (TCA)を加えて反応を停止させた。 反応終了後は全反応液をニトロセルロース

フィルターに載せて生成 DNAを吸着させ、 5

第 2 表

化合物		I C ₅₀ (μ		
Na	略称	HIV逆転写酵 素阻害活性(A)	P388細胞に 対する毒性(B)	(A) / (B)
1	ΑE	1 2.5	0.265	4 7. 2
2	AP	18	1 8.0	1. 0
3	ΛB	1 0.5	0.23	4 5.7
4	ΛPN	1 3.0	0.155	8 3.9
5	ΛH	7. 6	0.47	1 6.1
6	AllP	9. 5	1. 3 5	7. 0
7	DM P	2 7	0. 7	3 8.6
8	HEE	1 5.0	1. 2 5	1 2.0
9	MOP	4 6	3. 2	1 4.4
1 0	FIP	4.9	0.6 6	7. 4 2
1 2	AEE	8.4	0.46	1 8.3
1 3	A PM P	6.8	0.32	2 1.3
1 4	BAEE	5. 6	1.05	5. 3
1 7	AEEE	1 1.0	0.43	2 5.6
1 8	APPP	3.7	0.41	9. 0
1 9	APPYP	1 3	0.74	1 7. 5
2 0	DEMB	3 8	1. 9	2 0
2 1	ADMP	2 3	0.77	2 9. 8 7

% TCA、 20 mM ピロリン酸ナトリウムで洗浄して未反応 [α^{-32} P] dATPを除去した。 ニトロセルロースフィルター上の生成 DNA 量は放射能を測定して算出した。

酵素反応液に一般式(I)の化合物を加え、I Cso を測定した結果を、アドリアマイシン(ADMと略す)のそれと比較して<u>第2</u>衷に示す。

(四) 細胞毒性

5×10³ 個のマウスのリンパ性白血病細胞 P-388に本発明の新規アクリシン誘導体を加え、撹拌後に培養した。48時間後の細胞 増殖度をMTT法により測定した。本発明の新 規アクリシン誘導体のIC₅₀値をアドリアマイ シン(ADM)のそれと比較して<u>第2表</u>に示す。

さらに、本発明の新規アクリジン誘導体の HIV逆転写酵素阻害活性と細胞毒性の比を、 ADMのそれと比較して第2表に示す。

次に一般式(1)の化合物の製造例を示す。 製造例 1.

2 - メトキシー 6.9 - ジクロロ アクリジン 3.5 g に、ビス(3 - アミノブロビル)メチルアミン i ml を加えて 8 0 ℃にて 2 時間加熱した。反応液にトルエン 5 0 叫を加えて 5 0 叫の水で 4 回洗った。トルエン相を分離し優塩酸を加えると化合物 Na 1 3 (APMP)の黄色結晶が析出した。メタノールから再結晶して黄色結晶を得た。

NMR: (60 Ms, CD, OD)

8.5 6 (1 H, d, J = 9), 7.4 \sim 8.1 (5 H, m), 4.3 5 (2 H, t, J = 8), 4.0 6 (3 H, s, OCH₃), 2.8 \sim 3.8 (6 H, m), 2.9 5 (3 H, s, N - CH₃), 1.9 \sim 2.8 (4 H, m)

その他の物性値に関しては、本実施例と同様にして得られた化合物の物性値とともに第3表に示す。

1. 明細替第1頁の特許請求の範囲を次の通り訂正する。

(1) 一般式

〔式中、 Rはアルキレン基または下記式

(式中、R2またはR2は水素原子、低級アルキル基またはアミノ低級アルキル基を示し、nは0または1の整数を示す。)で表わされる基、R1は低級アルキル基、Xはハロゲン原子、Yは塩基性基を示す。〕

で示されるアクリシン誘導体またはその酸付加塩を有効成分とする HIV 逆転写酵素阻害剤および抗腫瘍剤。

- 4. 同第 12 頁 8 行目の「N, N'-」を「N, N-」 と訂正する。
- Re Re CENH」と訂正する。
- 同第14頁下から7行目の「こにより」を 「ことにより」と訂正する。
- 7. 同第16頁5行目の「I・C₅₀」を「IC₅₀」と訂正する。
- 8. 同第17頁下から6行目の「RNaso」を 「RNase」と訂正する。
- 同第21頁第3表中の化合物 No 1 及 21 の 行における MS(M+H)⁺ の欄をそれぞれ下記 の通り訂正する。

化合物 No. 1 の「302, 305」を「302, 304」 と訂正する。

化合物 No 21 の「328, 330」を「344, 346」

(2) 一般式

ン原子、R'はアルキレン基または - (アルキR² レン) - N - (低級アルキレン) - (R²は低級アルキル基またはアミノ低級アルキル基をNH 示す。)、Yは -NH₂, -NOO, -NHCH,

〔式中、Riは低級アルキル基、Xはハロゲ

NHCNH, を示す。 但し R' が アルキレン 基のとき、 Y は -NH, 以外の基を示す。 〕
で表わされる新規 アクリジン誘導体またはその 酸付加塩」

- 2. 同第 4 頁下から 1 0 行目の「誘導」を「誘導 体」と訂正する。
- 3. 同第 5 頁最下行の「など」を「→CH→(CH₂)₃→ など」と訂正する。

と訂正する。

- 10. 同第 21 頁下から 2 行目の「B」を「C」 と訂正する。
- 11. 向第 21 頁最下行の「C」を「B」と訂正する。
- 12. 同第 21 頁の最下行の次に次の文を挿入する。 「注 2) MS は本化合物が塩素 1 個を含むことによる軽同位体と重同位体分子付加イオンを示す。
- 13. 同第 21 頁下から 3 行目の「アンモン」を「ア ンモニウム水溶液」と訂正する。
- 14. 同第 21 頁第 3 表中の「R/値」とあるを 「R/値(シリカゲル TLC)」と訂正する。
- 15. 同第2項下から6行目の「CD, OD」を 「CD, OD」と訂正する。
- 16. 同第23 頁第4 表中の「R/値」を「R/値」を「R/値」を「R/値」を「TLC)」と訂正する。

18. 同第 23 頁(注1)の「B」を「C」と訂正する。

- 19. 同第 23 頁(注1)の「C」を「B」と訂正する。
- 20. 同第 23 頁 (注1)の最後の行の次に、次の文を挿入する。

「(注2) MS は本化合物が塩素 1 個を含む ことによる軽同位体と重同位体分子付加イオン を示す。」

以上

補正の内容

(1) 平成元年 2 月 1 7 日付手統補正書の第 4 頁下から 4 行目 (第 1 5 項)の「同第 2 項」 を「同第 2 2 頁」と訂正する。

U 上

手統補正管

平成元年 4月 20日

特許庁長官 吉田 文穀 取

1. 事件の表示

昭和 6 3 年特許顯第 2 5 4 4 号

2.発明の名称

HIV逆転写酵素阻害剤および抗腫瘍剤

3. 補正をする者

平件との関係 特許出順人 東京都品川区上大等 3 丁目 1 4 番 2 3 号 財団法人 微生物化学研究会 代表者 会長 市川 篤二

4.代 班 人

東京都千代田区富士見一丁目 11 番 2 号 日本化集株式会社内 (6126) 弁理士 竹田 和蘇門(1912)

(6120) 开度工 11 四 和 20

5. 補正命令の日付 平成元年 4 月 1 8 日

6. 補正の対象

平成元年 2 月 17 日付提出の手続補正書の補正の内容の欄

7. 補正の内容 別紙の通り

-673-